

精神科認定看護師は全国のさまざまな施設で、質の高い看護実践に取り組んでいます。その現場での実践内容を紹介します。  
\*なお、倫理的配慮として個人が特定されないよう、事例には改変を加えています。

## 広汎性発達障害のある患者の対象理解をチームで共有して

### スタッフの不安と精神症状の評価方法

A氏は広汎性発達障害の診断を受け、くり返される暴力行為や器物破損で入院となった20歳代の男性患者です。私がかかわりを始めたときには、過去の入院から衝動性や攻撃性の高さを理由に終日隔離室を使用していました。室内では大声で歌ったり、空笑が見られたりし、コミュニケーションの場面では対人緊張が強く、言葉は吃音で意思表示に困難が見られました。また、入浴の場面では全身の体毛を剃るといった行動もあり、スタッフから「言動が読めない患者」「奇妙な患者」といった声が聞かれていました。

A氏の行動は一見奇妙で、歌や空笑は精神症状の不安定さに見える部分があります。しかし、見方を変えれば、剃毛は整容への関心が高いこと、歌は気分転換やストレスの発散方法ととらえることができるのではないかと考え、病棟チームで患者像を共有するためにカンファレンスを行いました。そのなかで、スタッフから「奇妙な言動が不安」といった声が聞かれましたが、「たしかに暴力はないし、時間はかかっても食事や入浴はできている」といった話もあり、患者の特性と日常生活動作の安定に着目した精神症状の評価を行いながらかわることになりました。評価するポイントをチームで確認したことで、患者の落ちつき具合をスタッフ間で共有することができ、隔離解除につながりました。

### 患者理解を深める

A氏の特性をチームで共有してからは、スタッフとA氏の言語的なコミュニケーションが行える場面が増えました。そのなかで、「昔、みんなに毛が濃いつて言われた」と奇妙ととらえられていた行動にも意味があったことを知る場面がありました。チームとして患者理解を深めることで、スタッフのかかわりに変化が生まれ、A氏が安心して日常生活を送ることができたと思います。

患者を支えていくうえで多職種を含めた医療スタッフと度重なるカンファレンスを行うことがありますが、どうしても不安が先行したり、経験の不足、精神症状の評価の難しさなどからスタッフ間で意見の一致が難しいときもあります。今後も、多角的な視点で患者理解を深め、それをチームで共有しながら看護実践を行っていきたいと思います。



知識を習得して、適切な評価やアプローチを実践できるようになりたいと思い、精神科認定看護師の道をめざしました。



西村喜一(にしむら・よしかず)  
医療法人社団翠会成増厚生病院 精神科  
認定看護師 (2015年登録) (東京都)

## 精神科認定看護師ブラッシュアップ研修会 ライブ配信で開催

精神科認定看護師の方を対象にした研修会です。今年度もライブ配信で開催！「看看連携・地域連携」「権利擁護」をテーマに現場の課題解決に向けて、ディスカッションを通して学びあいます。

テーマ	看看連携・地域連携	権利擁護
ねらい	精神科認定看護師として、看看連携・地域連携を効果的に実践することができる。	精神科看護の対象者の権利擁護をふまえて、精神科認定看護師としての役割を適切に実践することができる。
日程	2022/10/28 9:00~16:00	2022/10/29 9:00~16:00
受講料	6,600円	6,600円
定員	80名	80名